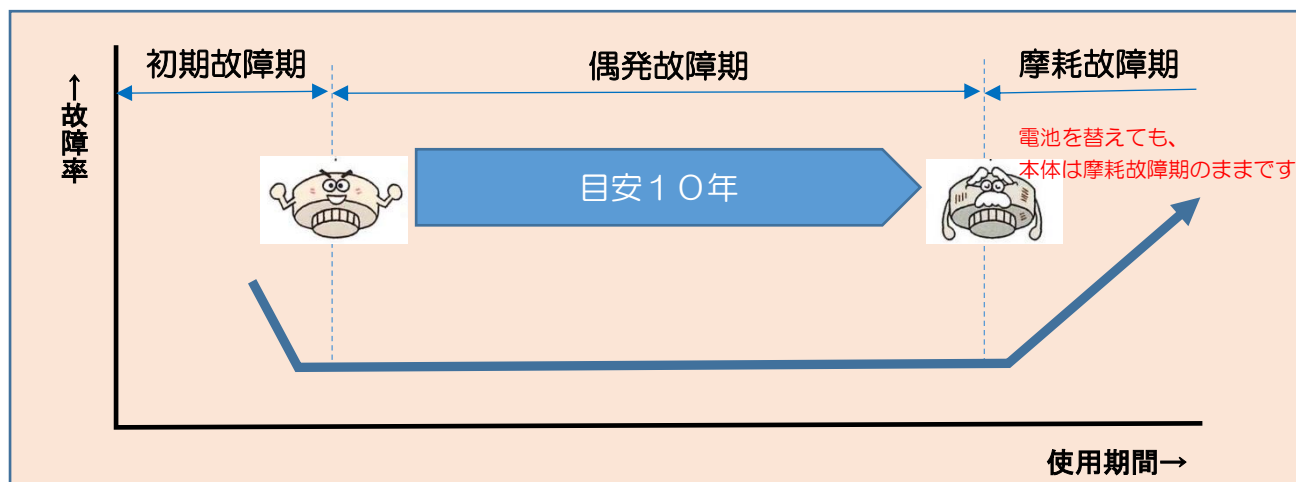


住宅用火災警報器交換チェック

家電製品の標準的な使用期間は、一般的に7年から10年といわれています。住宅用火災警報器も同様です。古くなると、電子部品の劣化や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあり、とても危険です。

ご自宅の住宅用火災警報器を点検・確認してみましょう。



1. 点検する

警報器のボタンを押す、
またはひもを引いて音を確認する



「ボタンを押す」



「ひもを引く」

・ 正常な場合

「ピーピーピー」、「ピーピーピー火事です」、
「正常です」など
※警報音はメーカーや製品により異なります。

・ 電池切れの場合

「ピッ・・・ ピッ・・・」

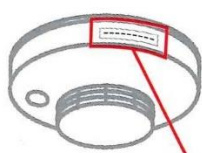
・ 故障の場合

「ピッピッピッ・・・ ピッピッピッ・・・」
※電池のコネクタが、本体にしっかり差し込まれていないと音がならない場合もあります。

2. 確認する

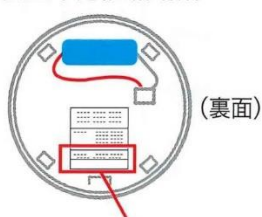
警報器の設置年月や
製造年月を確認する

設置年月記入場所



2006年1月設置

製造年月記載場所



製造年月 2007.10

- ・ 記入場所はメーカーや製品によって異なります。
- ・ 設置後まもなく電池が切れた場合は、販売店またはメーカーにご相談ください。